



クマノミズキ

22 編の わたしの神よ、わたしの神よ／なぜわたしをお見捨てになるのか(22:2) との冒頭の言葉はわが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか(マタイ 27:46) という主イエスの十字架上の言葉と同じで、非常に心揺さぶられます。詩人は 見よ、わたしはあなたと共にいる。あなたがどこへ行っても、わたしはあなたを守り、必ずこの土地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを果たすまで決して見捨てない(創世記 28:15) とヤコブに語られた神の言葉が信じられないほどの苦しみに喘いでいるのでしょう。神は人間の

弱さをご存じだからこそ、共にいると言われるのです。人間は何度も何度も弱さ、苦しみに負けそうになります。そのつど神の約束を信じる信仰が詩人を支えます。波が引き、また、打ち寄せるように、詩人は22編で歌っています。なぜわたしをお見捨てになるのか あなたに依り頼んで裏切られたことはない わたしは虫けら、とても人とはいえない 母の胎にある時からあなたは私の神 雄牛、猛牛、獅子のように牙をむいて私に襲いかかる者がいる 私の魂を救い、私の身を犬どもから救い出して下さい と、詩人は塵と死の中に打ち捨てられても、なお「わたしの神よ」と呼びかけます。その時、兄弟姉妹たちと共に賛美した集会を思い起こし、詩人の訴えを聞いて下さる神に信頼を捧げます。「讚美歌21」119「力のみ神よ」がこの詩編を歌っています。これはパキスタンのパンジャブ地方の民謡を取り入れ、アメリカ人ハイネス(R. Hines 1944-)により作られた「神を覚える」という讚美歌です。参照 <https://www.youtube.com/watch?v=FMLpVLUuMFg> ジュネーブ詩編歌22 (前出参照) はフランス語とドイツ語の両方で「わが神、わが神」と男声で歌われています。

23編は最も親しまれている美しい、慰め深い賛歌でしょう。これを口ずさむ度に、これを愛唱した友人の顔、顔、顔を思い出します。22編の次に置かれているのは当然だと思えてなりません。今や、詩人は魂を生き返らせてくださった神の傍にいます。彼は死の陰の谷、災い、苦しめる者の前にいても、あなたがわたしと共にいてくださる。あなたの鞭、あなたの杖／それがわたしを力づける(23:4) と、神と共にいる力強さを歌っています。神は食卓を整え、香油を注ぎ、盃を溢れさせ、詩人は満ち足りています。命のある限り／恵みと慈しみはいつもわたしを追う。主の家にわたしは帰り／生涯、そこにとどまるであろう(23:6) と、神と共にある生と死の恵みを賛美しています。「讚美歌21」120「主はわがかいぬし参照 <https://www.youtube.com/watch?v=TcqG4nAwkp4>」はイギリス人ウィットテンガム(W. Wittingham 1524-1579)によって作詞されました。作曲者はジェシー・アーヴィンとされています。広く愛唱されています。121「主はわが牧者」はフランス詩編歌の答唱をそのまま取り入れています。参照 <https://www.youtube.com/watch?v=gbtRZkTbI50> ジュネーブ詩編歌23はとても静かで美しい詩編です。(前出参照)

24編は「世界／主を求める人／栄光に輝く王」の三連による賛美です。「神は流れるカオスに世界を築かれた／主を求める人は潔白、清心／頭を振り上げ、身を起こし、城門の扉を開き、栄光の主を迎えよう」と力強く賛美します。「讚美歌21」122「地とそこに満ちる」はジュネーブ詩編歌を歌います。(前出参照) 同じく24編を歌った123「ひらけ、とこしえの扉よ」はアメリカ先住民として生まれたドゥーバ(A. D. Duba 1929-)により作詞され、イスラエル民謡を取り入れた答唱の讚美歌です。参照 <https://www.youtube.com/watch?v=dwKVHdMxIIw>